

2019 年 10 月 15 日（10 月 16 日 図 2 の凡例を追加）

2019 年台風 19 号による水害と旧河道（川崎市高津区溝口）

久保純子（早稲田大）・海津正倫（奈良大特命・名古屋大名誉教授）

2019 年 10 月 12 日から 13 日にかけて関東地方を通過した台風 19 号に伴う大雨で、多摩川下流域では数か所で浸水がみられた。

多摩川下流右岸の川崎市高津区溝口 6 丁目ではマンションの 1 階が浸水し、住民 1 名が亡くなった。海津がこの地点が旧河道であることを指摘したため、久保が 10 月 13 日に現地を確認のため訪れた。この地域の地形やハザードマップの状況について速報する。



図 1 位置図（地理院地図）+印がマンションの位置



写真 1 平瀬川・多摩川合流点（右が多摩川）



写真2 平瀬川右岸のコンクリート堤防（多摩川合流点付近）
被災したマンションはここから 200m ほど先の左奥手に位置している



写真3 浸水したマンション



写真4 マンション背後の浸水

(写真はいずれも 2019 年 10 月 13 日久保撮影)

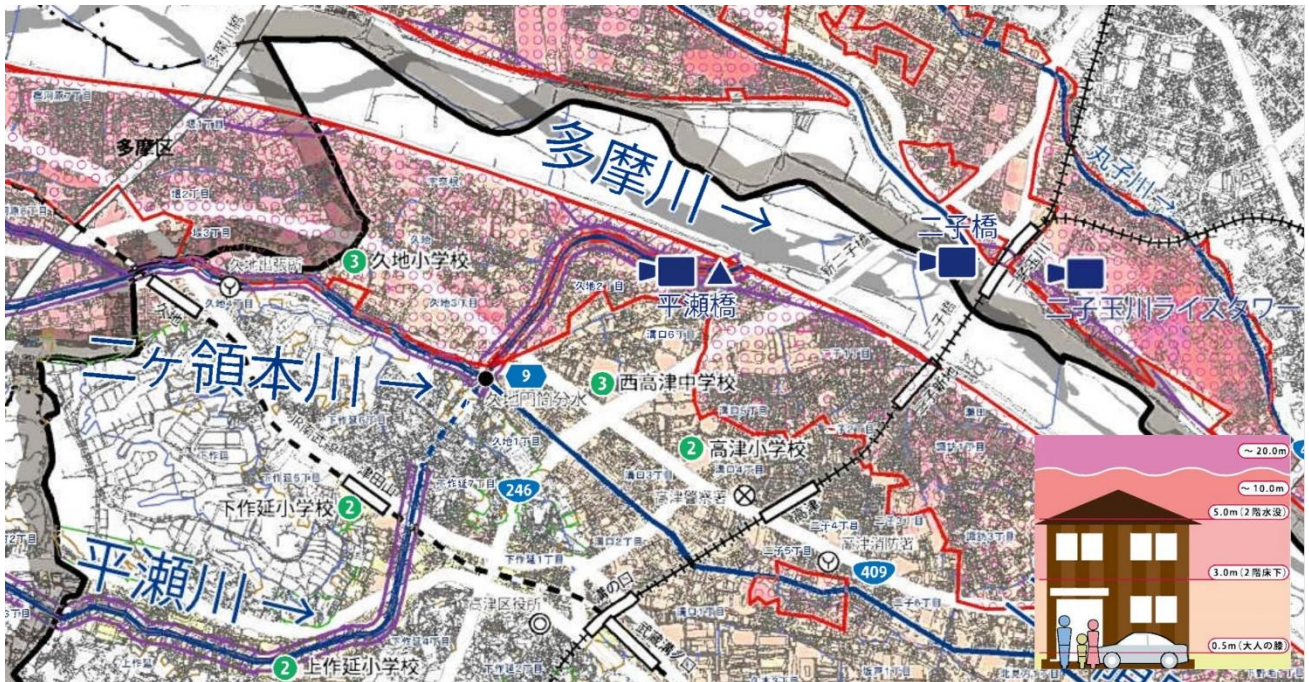


図2 川崎市（高津区）ハザードマップ「洪水浸水想定区域（多摩川水系）」の一部（凡例を追加）

<http://www.city.kawasaki.jp/530/cmsfiles/contents/0000018/18174/04tthm-2.pdf>

川崎市高津区の水害ハザードマップ（図2）では、河川ごとの浸水想定範囲と浸水深が重ねて表示されておりいろいろな記号が重なっていてややわかりにくいですが、当該地域付近一帯には浸水深が 0.5～3.0m の色がつけられているように見える。また、氾濫流や河岸侵食による「家屋倒壊等氾濫想定区域」にあたるとされており、これは多摩川の直接的な氾濫流や河岸侵食による家屋倒壊等の危険性があるという想定である。ハザードマップを見る限り、マンションの立地場所が洪水の際に周囲より水深が深くなるというようには示されていないようである。なお、ハザードマップの今回の被害箇所付近には平瀬橋のカメラの位置を示す記号が大きく置かれていて、拡大した場合にその付近の情報がややわかりにくくなっている。

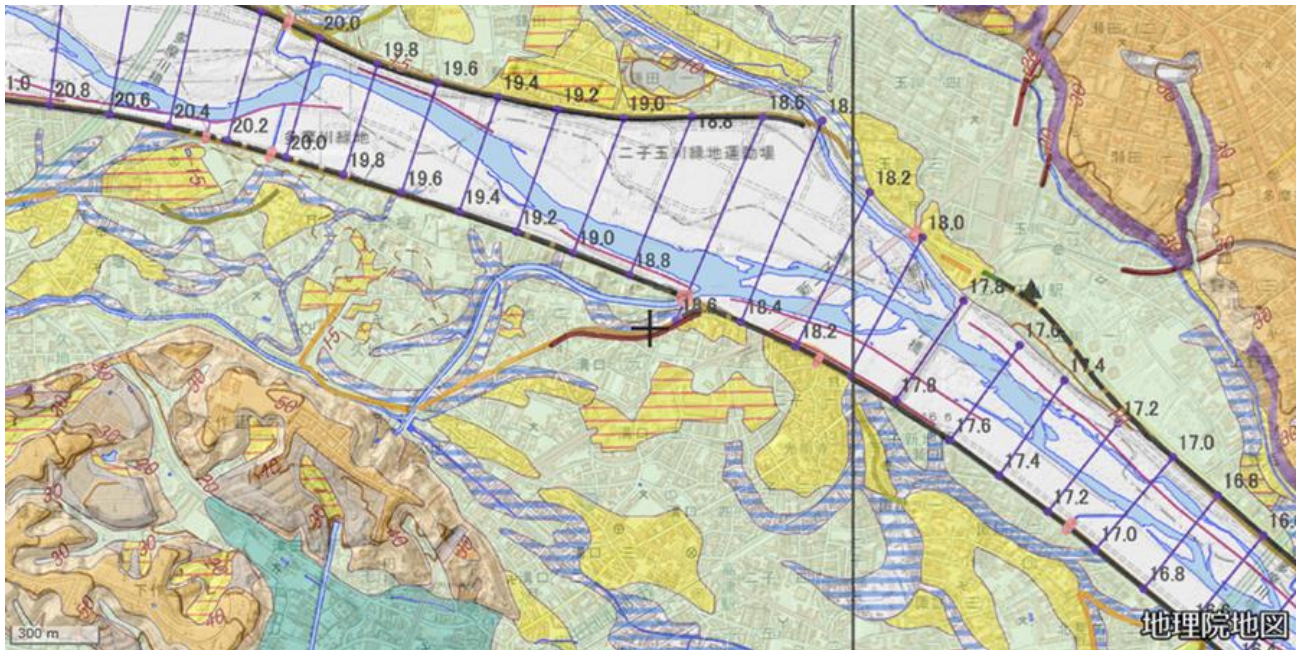


図3 周辺の治水地形分類図（地理院地図；陰影起伏図と重ねて表示）

この場所は治水地形分類図では「旧河道」と表示されている。また、マンションの南側には弧状の「連続盛土」が示されている。この「盛土」は平瀬川の右岸堤のように見えるが、写真2に示すとおり、平瀬川にはコンクリートの壁のような堤防があり、マンションは「堤外地」というわけではない。

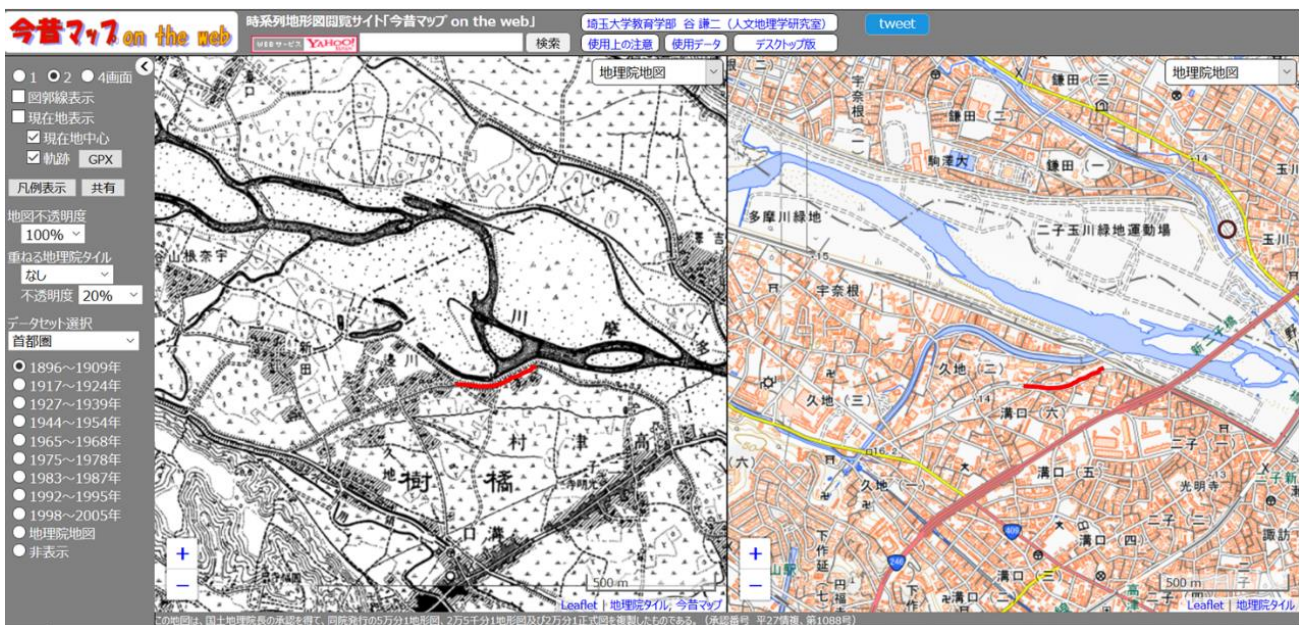


図4 明治の地形図との比較（今昔マップ on the web）、マンションの前の堤防（赤い線）を追加した

マンションの南側の「連続盛土」は立派な堤防に見え、明治期の地形図を見るとこれは多摩川の右岸堤そのものであり、旧河道も多摩川の旧河道である可能性が高い。今回の浸水は多摩川の水位上昇で平瀬川が排水不能となり（バックウォーター）、さらに旧堤防にさえぎられて旧河道部分で深い浸水が発生し

たものと思われる。

授業などで、旧河道は洪水の通り道になったり、湛水深が深くなったりするので危険だが、都市化に伴ってそのようなことを知らずに住んでいる人達がたくさんいる、ということを話すことが多いが、溝口6丁目の旧河道の部分ではまさにそのような危険性が現実となった。地形を見ることの重要性をあらためて強調したい。